

検討すべき課題

第1回ワークショップでは、湯東地区の公共施設について、将来の財政負担の軽減や料金設定など様々な課題が示されました。今後、私たちは、何を解決しなければならないのか、改めて検討すべき課題を整理しました。

【検討すべき課題】（案）

- 将来世代に過度な財政負担を強いることなく、また、必要な公共サービスを維持するために、市有財産をどう管理・利活用していくべきか？
- 施設の状況やサービスに見合った適切な料金設定や、利用手続きなど運用面の改善、アクセスの改善など、施設が無駄なく効率的に利用されるために何をすべきか？
- 廃校となる小学校など、施設の役割が変化した場合は、その施設を具体的にどう利活用していけばよいか？
-

課題解決の狙い

検討すべき課題を解決することで、どのようなことが達成されている必要があるでしょうか。「課題解決の狙い」として整理しました。

【課題解決の狙い】（案）

- 過度な財政負担が将来世代に残らない
- 地域に必要な機能を維持する（高齢者、子育て、防災等）
- 地域のまとまりや中心性を保つ
- 地域が活性化する（魅力が増す、雇用を生む、人口が増える等）
- 地域間や世代間で、利用や負担の公平性やバランスがとれる
- 施設が有効に利用され、無駄がなく、安全で、地域のためになる
- アクセスしやすく、気軽に使える
-

成果のとりまとめ方

市では、潟東地区の今後の公共施設のあり方について、ワークショップなどでの議論を踏まえ、地域別実行計画としてとりまとめます。その項目を次の通り整理しました。

【地域別実行計画としてとりまとめる項目】（案）

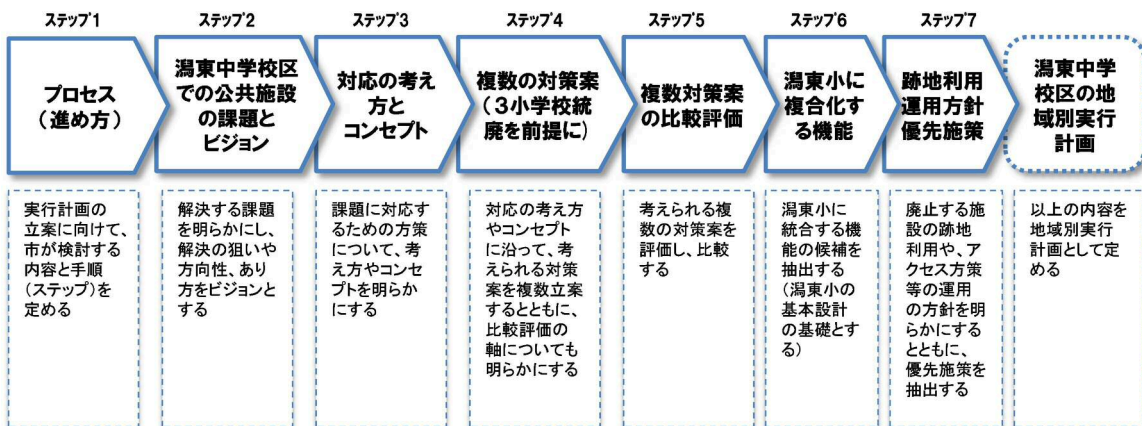
- 潟東中学校区の公共施設に関わる課題
- 目標とするビジョン（課題解決の狙い）
- 課題対応の考え方や対策のコンセプト
- 具体的な対策案
- 既存施設の利用の効率化や廃止施設の利活用のあり方
- 優先すべき施策
- 今後の進め方

地域別実行計画の検討プロセス

地区別実行計画を策定するまでに、初めにプロセスを定め、課題やビジョン（狙い）を確認し、複数の対策案を比較評価して対策案を選定します。また、地区別実行計画には、具体的な方策として、新設する潟東小に統合すべき機能、跡地利用、施設運用方針、優先施策などを取り込みます。

【地域別実行計画の検討内容や手順】（案）

- 初めにプロセスを定める
- 課題とビジョン（狙い）を先ず確認する
- 課題への対応の考え方やコンセプトを確認する
- 機能の統廃合など、根本的な対策について複数案を立案する
- 複数案を比較評価し、最良案を選定する
- 新設する小学校に複合化する機能を抽出する
- 跡地利用や施設運用のあり方を確認する
- 優先施策を抽出する
- 地域別実行計画としてとりまとめる



市民の参加と意見反映の仕組み

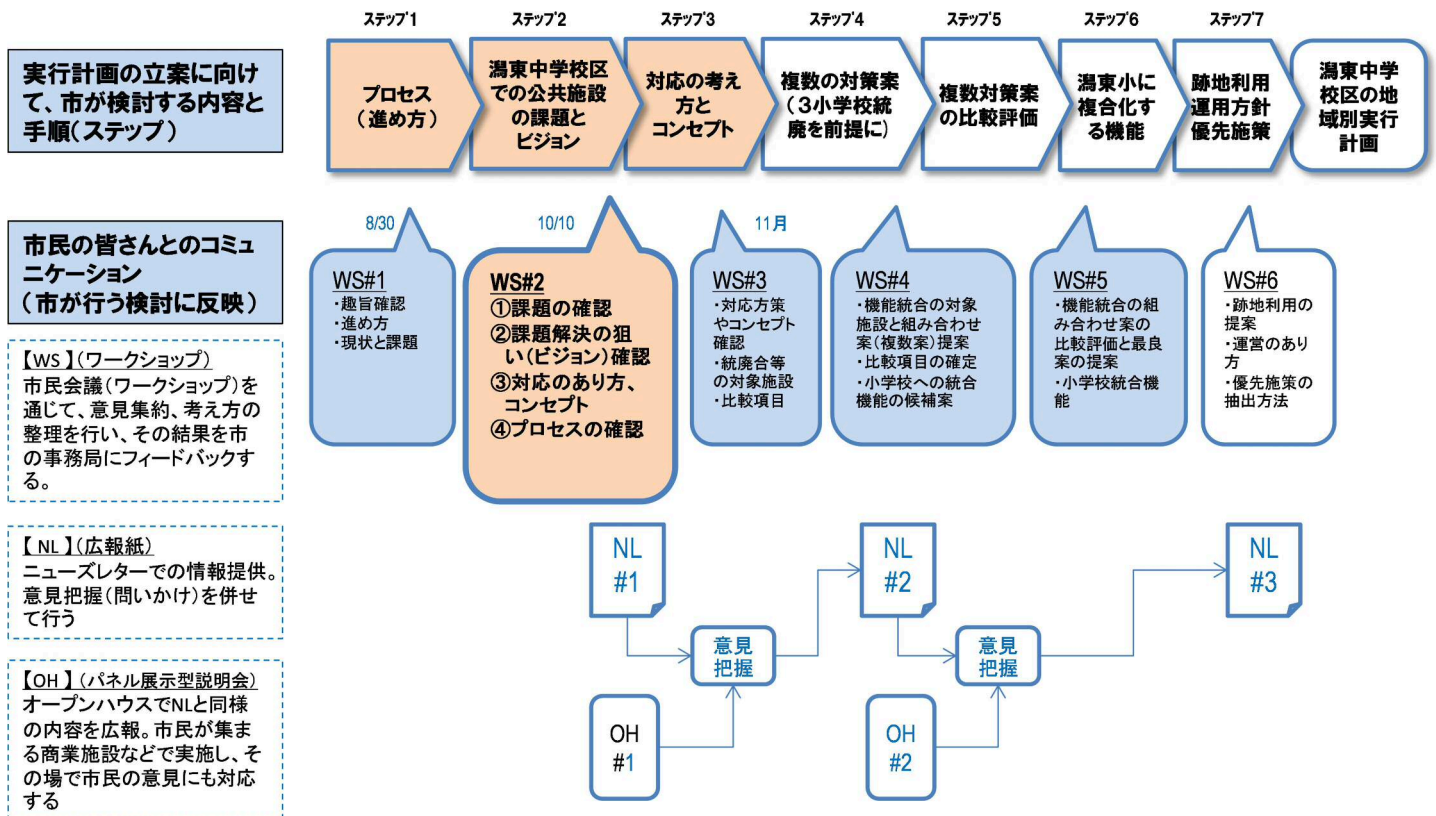


地区別実行計画の検討では、ニュースレター（広報紙）やオープンハウス（パネル展示型説明会）、ワークショップ、市民フォーラムの場で、情報を提供し、皆さんとのコミュニケーションを積極的に実施します。

情報提供や意見把握は、地区別実行計画の検討手順に合わせ、順序だてて実施します。このことで、検討内容ごとに意見を反映することができ、協働して計画を検討することができます。

作業工程や具体的な時期を踏まえた検討プロセスの全体像は下図のようになり、全体で7つのステップで段階的に進めます。今回のワークショップでは、オレンジ色の部分の内容を検討します。

【検討プロセスの全体像】（案）



市民の皆さんとのコミュニケーション(市が行う検討に反映)

【WS】(ワークショップ)
市民会議(ワークショップ)を通じて、意見集約、考え方の整理を行い、その結果を市の事務局にフィードバックする。

【NL】(広報紙)
ニュースレターでの情報提供。意見把握(問いかけ)を併せて行う

【OH】(パネル展示型説明会)
オープンハウスでNLと同様の内容を広報。市民が集まる商業施設などで実施し、その場で市民の意見にも対応する